

中之島新線建設工事

中之島新線は、京阪本線の天満橋駅から分岐し玉江橋駅（仮称）に至る約2.9kmの路線で、現在、2008年度の開業をめざして建設工事を進めています。

中之島地区では大規模な再開発が進んでおり、大阪市

では、「大阪の文化・情報の中心としての機能を備え、ウォーターフロントなど水辺の景観を活用した世界に誇れる大阪の顔とする」としています。

これを受けて、建設工事に当たっては水辺かつ緑に囲まれているという立地特性を生かし、周囲の景観に配慮するよう努めています。



低騒音型の建設機械の導入

新線建設工事では、建設機械の使用に伴い、騒音や振動が発生します。当社では、低騒音型建設機械を導入して騒音の低減を図り、より良い地域環境の実現をめざしています。

舟運の利用

掘削工事に伴い発生する残土は、中之島という川に面した立地を生かし、工区から土砂運搬船に積み込み、最終処分地への中継地まで運んでいます。

トラック輸送に比べCO₂やPM（粒子状物質）等の排出を大幅に削減でき、またトラック走行に伴う騒音・振動の低減、交通渋滞緩和にも寄与しています。



イメージアップの推進

工事現場から人を遠ざけないように樹木や草花を沿道に植栽し、景観の保持や緑化に努め、工事のイメージアップを図っています。また、遊歩道や柵などには、環境にやさしい資材を採用しています。

Environmental Report 2005

全社的な取り組み

エコオフィスの推進

電力消費量の削減

省エネルギーを進めるうえで最も基本的かつ効果的なことは、「使わない時には電源をOFFにする」ということです。そこで、各オフィスでは、休憩時間中には消灯して電力消費量の削減を図っています。また、長時間使用しないテレビなどの電気製品のプラグをコンセントから抜くことで待機電力をカットしたり、空調機器の設定温度にも一定の基準を設けて無駄を省いたりしています。



▲節電モードに設定したコピー機

機密文書類の処理

本社事務所で1年間に処理する機密文書類は2～3tに上ります。従来は焼却処理をしていましたが、焼却の際に発生するCO₂は環境に少なからず影響を与えていると考え、環境にやさしいと言われる溶解処理に変更しました。

大気汚染防止に一役買うだけでなく、溶解処理の際に出る残存物も再生紙やトイレトーパーに生まれ変わるなど、資源の有効利用にも貢献しています。

ペーパーレス化に向けての取り組み

昨年度に引き続き、ペーパーレス化の一環として、電子メールによる資料配布、両面コピー・集約コピーの利用促進を図るとともに、部署ごとにコピー用紙の使用枚数を月単位で管理し、実績の多い部署に対しては削減努力を求めています。

また、ミスコピー用紙の裏面の利用促進を図るため、コピー機の横には協力を求めるポスターを張り出すとともに、ミスコピー用紙をためるラックを設置しました。

グリーン購入の推進

グリーン購入の推進をめざして、2004年度は①文具具類特定調達品目の環境対応品購入率②名刺・封筒・帳票類の再生紙製品購入率③コピー用紙の再生紙製品購入率の3点につき数値目標を設定し、②を除いて十分に数値目標をクリア（②についても数値目標100%に対して99.5%）できました。

今後は廃さびぐを利用したトイレトーパーの導入を進めるなど、さらにグリーン購入の対象品目を拡大していきます。